

<PR アワードグランプリ 2024 エントリーシート>

【エントリー名】 情熱があれば、だれでも音楽家。「だれでも第九」プロジェクト

【事業主体】 ヤマハ株式会社

【実施期間】 2023年3月～12月

エントリー案件に関するキーワードがあれば√してください。√の有無や数は評価に関係ありません。（複数可）

コーポレート・コミュニケーション コーポレートブランド インターナルコミュニケーション リスクコミュニケーション マーケティング・コミュニケーション
 新商品コミュニケーション ロングセラーコミュニケーション ソーシャルグッド グローバル 新手法開発 自社コンテンツ開発（著作）

パブリックリレーションズとしての視点： Why Public Relations ?

「手足に障がい=ピアノでの演奏/合奏が難しい」という世の中の先入観を覆す（それによるブランドプロミスの実現）

障がいのある人にとって、健常者と同じ水準でピアノを楽しむことが難しいという先入観があり、そもそも挑戦しない人/演奏を諦めてしまう人が多い。（単音しか弾けない/伴奏ができない/打鍵が弱く音が鳴らないなど障がいのレベルに応じて悩みは様々）。『音楽の喜びを、だれにでも平等に届けること』をブランドプロミスに掲げるヤマハは、こうした認識への違和感に着目。日本有数のオーケストラ・合唱団、音楽好きたちを巻き込み、自社のテクノロジーを活用しながら、障がいのあるピアニストと「第九」コンサートを実施するという前代未聞のチャレンジをした。

解決すべき課題： Challenges

実例不足による認識の固定化

「手足に関連する障がいがあるが、演奏/合奏した実例は非常に少ない。「私がピアノに挑戦しようと思うと、他人に迷惑がかかる」と答える当事者も見受けられ、「障がい=演奏/合奏が難しい」という認識が、固定化されていることが分かった。一方、ヤマハ内には、鍵盤を弾くと、その旋律に合わせて伴奏とペダルが自動で追従する「だれでもピアノ®」という技術があり、活用の仕方次第では、障がいのある奏者でも、演奏/オーケストラと合奏する実例を作れるのではないかと考えていた。

課題解決のための戦略： Strategy & Research

ステークホルダーを巻き込みながら、手足に障がいのあるピアニストを主役にしたコンサートを成功させる

「手足に関連する障がいがあっても、ピアノでの演奏/合奏（オーケストラとの共演）ができる」という新しい当たり前を広めるために、障がいのあるピアニストに加え、日本有数のオーケストラや合唱団、音楽好きも巻き込みながら、コンサートを成功させることをミッションとした。具体的に以下ポイントを意識。

【①異なる障がいのある3名のピアニストの出演】欠指/先天性ミオパチー（筋肉の難病）/脳性麻痺といった物理的にピアノが弾けない3名をキャスティング。それぞれ弾けない理由が異なる出演者とともに、だれでも「ピアノが弾ける未来」の実現を目指した。

【②長期にわたる挑戦】2023年3月からの、合同練習、ピアニストの個人練習 / オンラインレッスンなど9ヶ月間（合計360時間）に及ぶ取り組みを実施。さらに、オーケストラや合唱との調和も踏まえ、「第九のピアノコンチェルト編曲」を随時調整。テクノロジーに頼りきらず、障がいの段階に応じた「正しい努力」をするというプロセス踏むことで、演奏/合奏が実現可能であるということへの意識づけを行なった。

【③コンサートとしてのクオリティの担保】1音1音情熱を持って紡がれる障がい者の演奏には圧倒的な迫力があり、その演奏とオーケストラとの合奏は、スリリングでエンターテインメント性の高い音楽体験になると確信。訪れるお客様が、チャリティーではなくライブエンターテインメントとして楽しんでもらえるよう、最高レベルの完成度を目指した。

課題解決のための独創性あるアイデア： Idea

障がいのある3人/日本屈指のオーケストラ・合唱団/演奏アシスト AI ピアノによる「第九」コンサート

ヤマハの「だれでもピアノ®」技術を本プロジェクト用に発展させ、演奏アシスト AI ピアノを開発。「身体的な障がいのある3人のピアニスト」「日本屈指のオーケストラ・合唱団」との合奏によるベートーヴェンの第九コンサートというかつてないライブエンターテインメントに挑戦。年末の風物詩であると同時に、人間賛歌の想いを込めて作曲された第九は、このプロジェクトのシンボルとして最適な曲だと考えた。

【演奏アシスト AI ピアノとは】「だれでもピアノ®」をベースに、奏者の異なる障がいに合わせて鍵盤やペダルをコントロールするシステムを新たに構築したピアノ。出演者の合計162時間の演奏データから、本コンサートに適切な機能を搭載、完成させた。

活動内容の専門性または完成度： Execution

サントリーホール ブルーローズで開催した「だれでも第九」

- 3月：プロジェクト発足 / 練習開始 / 演奏アシスト AI ピアノ用のデータ収集スタート
- 10月：ローンチ / Xにてプロジェクト進捗投稿 / 観覧申し込みキャンペーン
- 12月：本番

2023年12月21日、サントリーホール ブルーローズ/ YouTube&X 上で全世界に向けてリアルタイム配信。「手足に関連する障がいのある3人のピアニスト」と、国内外で著名音楽祭に多く出演する「横浜シンフォニエッタ」「東京混声合唱団」との『第九』コンサート。約1時間にわたって、第全四楽章を合奏に成功した。

コンサート詳細：[「だれでも第九」プロジェクトムービー](#)

目標に対する直接的・間接的な成果・評価： Results

「障がいがあっても演奏/合奏できる」といった NEWS が世界へ広がった。さらに、本プロジェクトの反響によって「演奏アシスト AI」は正式にアプリ化予定。

◎会場には観客約200名が来場 / 生配信は21万視聴超え

◎世界36国、710メディアに露出。推定5億4600万人にリーチ。国内主要なメディアをはじめ、世界最古の報道機関「AFP」などの海外メディアでも報道。

◎「だれでもピアノ演奏ができるようになったこと。それは、音楽の世界にとっても素晴らしいことである。（AFP）」といった報道をはじめ、多くのメディア・大学学部長などのオピニオンリーダーから「障がいがあっても演奏/合奏ができる」といった文脈で評価された（＝一部ステークホルダーの認識変容に成功した）。

◎ヤマハグループ内では、社の中心プロジェクトの一つとして認知され、株主総会/年次発行物の会社案内・統合報告書などで紹介。また、障がいのある方やそのご家族から、企画や演奏アシスト AI ピアノに関する問い合わせがあった。さらに Adtech/JAA からの登壇依頼など、様々なステークホルダーとの関係構築に成功。

◎世界最大の広告祭 Cannes Lions でのショートリスト(2部門)をはじめ、New York Festivals やギャラクシー賞など、国内外の7アワード/15部門に入賞。

◎本プロジェクトの実績や反響から、「演奏アシスト AI」はアプリ化され、2024年度内にリリースすることに。全世界1000万台以上のピアノで使用可能になる予定。